

**「大震災の医療現場への影響」
(茨城県を除く関東地方1都5県)
実態調査**

平成23年3月28日

株式会社QLife(キューライフ)

調査の背景

東北地方太平洋沖地震は、地震・津波・火災による直接被害だけでなく、今もなお(2011年3月28日現在)放射能漏れによる災害拡大が続いている。歴史に例を見ない大災害は、被災者以外の生活・心理面にも大きな影響を与えている。

そこで、茨城県を除く関東地方(栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川の1都5県)の医療現場に、「大震災に起因する患者の病状悪化」状況を確認した。初めての経験に直面している医療者も多く、互いの状況を共有することで、円滑な診療に役立てて頂きたい。

結論の概要

1) 直接大きな被害を受けていない地域でも、半分以上の医療現場で「震災で心因的な病状悪化」した患者さんが見られる。病状悪化は、「子供」だけでなく、むしろ「大人」に認められるとする医師の方が多い。

2) 大震災による「心因的な病状悪化」は、「女性」「高齢者」の患者に多い。小児では「喘息」「発達障害」の悪化、大人では「高血圧」「うつ」「不眠症」の悪化が多い。また、「独り暮らし」で、再び大地震が来たらと不安が強まって持病悪化のケースも多い。

3) 具体的な症例では、「自殺傾向を示す(病院/東京)」「定期受診者の全員が血圧上昇(病院/群馬)」「心不全が増悪して入院(病院/千葉)」との報告も。典型内容は、「不眠」「めまい・浮遊感」「血圧上昇」の順で多く、「余震」「TV映像」がきっかけになる症例も多い。

4) 3分の1の医療現場で「向精神薬の処方」が増えた患者さんがいる。その原因不安は、「余震が続く」が20%で1位だが、「悲惨な映像」が14%で2位で、実体験でなくとも映像によって精神的影響を受けた患者さんも少なくない。「放射能」不安で向精神薬の処方に至る症例も、7%の医師において認められた。

5) 42%の医師が、今後、自分の患者さんのなかでPTSDを生じる人がいると予想。過去にPTSD症例経験ない医師も多いと思われるため、(そもそもPTSDとは何か、も含め)医療者間での診療ノウハウの早期共有が望まれる。

【調査実施概要】

▼調査主体

株式会社QLife(キューライフ)

▼実施概要

- (1) 調査対象: 茨城県を除く関東地方(栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川の1都5県)の医師
- (2) 有効回収数: 252人 (診療所開業医82人、病院勤務医170人)
- (3) 調査方法: インターネット調査
- (4) 調査時期: 2011/3/24~2011/3/25(東北地方太平洋沖地震が発生して2週間後)

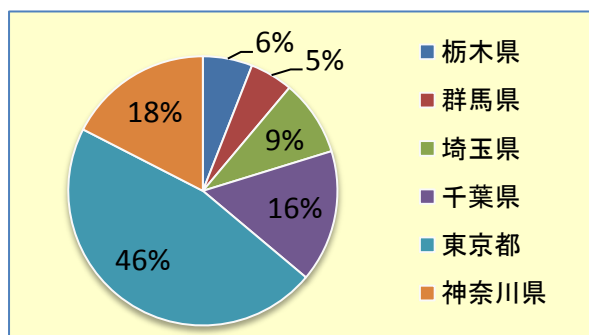
▼有効回答者の属性

(1) 性・年代:

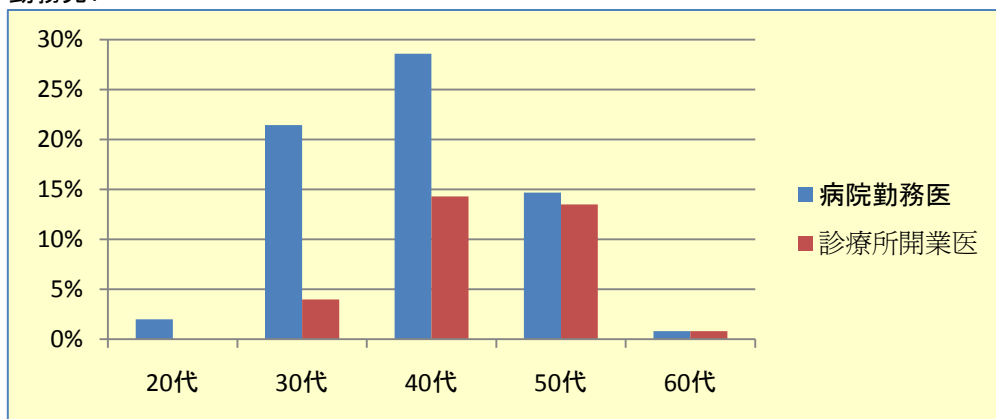
	男	女	計
20代	2.0%	0.0%	2.0%
30代	19.4%	6.0%	25.4%
40代	33.3%	9.5%	42.9%
50代	26.2%	2.0%	28.2%
60代	1.6%	0.0%	1.6%
計	82.5%	17.5%	100.0%

(2) 居住地:

栃木	15	6.0%
群馬	13	5.2%
埼玉	23	9.1%
千葉	40	15.9%
東京	117	46.4%
神奈川	44	17.5%
合計	252	100.0%



(3) 勤務先:

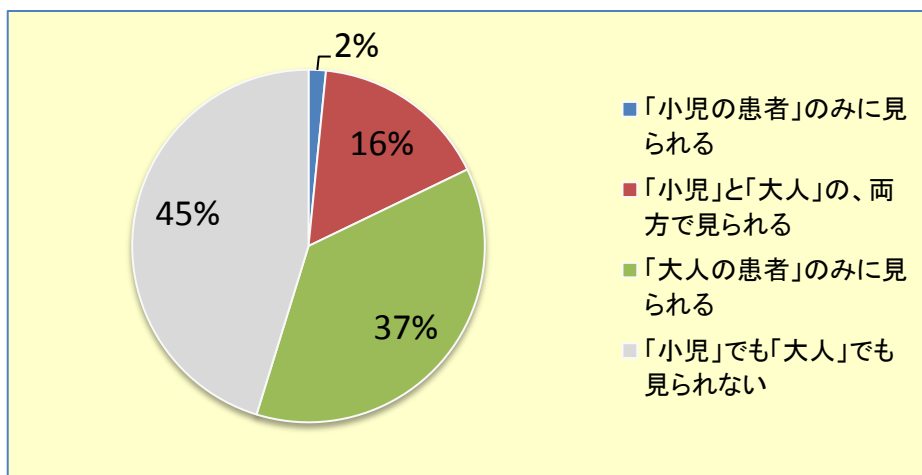


【調査結果の詳細】

1. 「東北地方太平洋沖地震」の発生以来、【過去10日間】で、大震災に関連すると思われる「心因的な病状悪化」が見られる患者さんはいますか。

茨城を除く関東地方(1都5県)全体で、55%の医療現場において、「心因的な病状悪化」の患者さんが見られた。東京でも、57%の医師が、大震災影響での病状悪化症例を診ている。

病状悪化は、「子供」だけに限らない。むしろ「大人」に認められるとする医師の方が多い。また、「病院」よりも「診療所」の患者さんに、影響を受けている患者さんが多い。



	n	「小児の患者」のみに見られる	「小児」と「大人」の、両方で見られる	「大人の患者」のみに見られる	「小児」でも「大人」でも見られない	%
全体	252	1.6	16.3	36.9	45.2	
病院	170	0.6	15.9	34.1	49.4	
診療所	82	3.7	17.1	42.7	36.6	
栃木県	15	0.0	13.3	40.0	46.7	
群馬県	13	0.0	15.4	30.8	53.8	
埼玉県	23	4.3	17.4	43.5	34.8	
千葉県	40	0.0	7.5	35.0	57.5	
東京都	117	0.9	18.8	37.6	42.7	
神奈川県	44	4.5	18.2	34.1	43.2	

2. 大震災関連の「心因的な病状悪化」が多い患者さんの、「属性/類型」傾向を教えてください。

どんな患者に「心因的な病状悪化」が多いのか、その属性/類型を聞いたところ、【小児】では、喘息や発達障害の患者に多いようだ。あまり性・年齢による傾向は強くない。

一方、【大人】では、「女性」「高齢者」に多いとの傾向が顕著であった。また、「高血圧症」や「うつ」を患っている患者に多い。「独り暮らし」で、再び大地震が来たらどうしたらよいのか、と不安が強まって持病を悪化させている患者も多い。

◆「心因的な病状悪化」が多い【小児】患者の属性

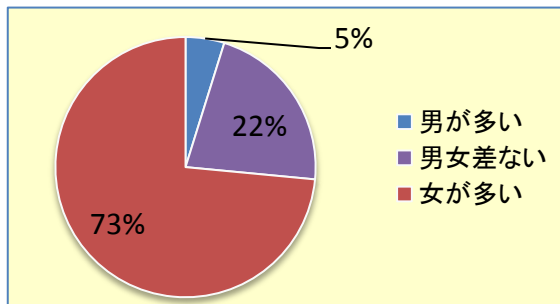
※“【小児】に心因的病状悪化が見られる”
とした医師45人の回答から読み取り集計

- ・性別： 男女による多寡報告はほとんどない
- ・年齢： 年代による多寡報告はほとんどない
- ・持病： 「喘息」、「発達障害」の患者に多い

◆「心因的な病状悪化」が多い【大人】患者の属性

※“【大人】に心因的病状悪化が見られる”
とした医師134人の回答から読み取り集計

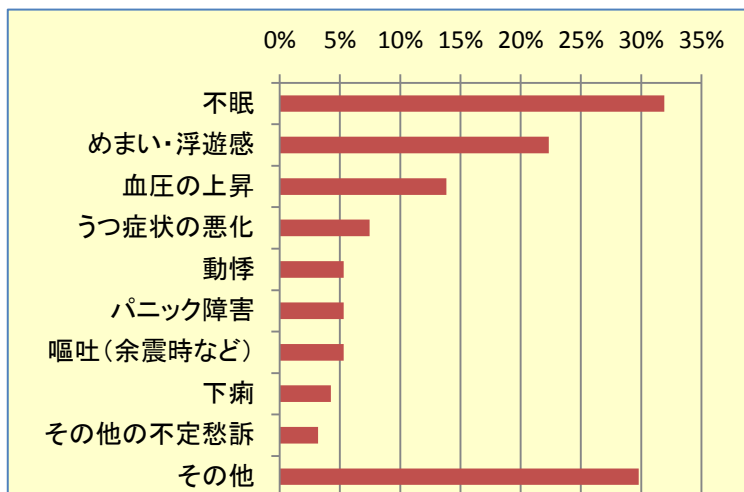
- ・性別： 「女性」が圧倒的に多い
- ・年齢： 「高齢者」が多い
- ・持病： 「高血圧」「うつ」「不眠症」が多い他、精神疾患名を挙げる医師が多い
- ・その他： 「独り暮らし」「もともと心配性・神経質」が多い



※グラフの母数は、「【大人】に心因的病状悪化が見られる」とした医師134人のうち、性差言及ない51人を除く83人

3. 「心因的な病状悪化」で最も印象的だった【症例】を、具体的に一つ教えてください。

最も印象的な「心因的な病状悪化」症例を聞いたところ、内容は多岐にわたった。なかには「自殺傾向を示す(東京・病院)」「定期受診者の全員が血圧上昇(群馬・病院)」「心不全が増悪して入院(千葉・病院)」との報告も。典型内容は、「不眠」「めまい・浮遊感」「血圧上昇」の順であった。「余震」「TV映像」がきっかけになる症例も多い。

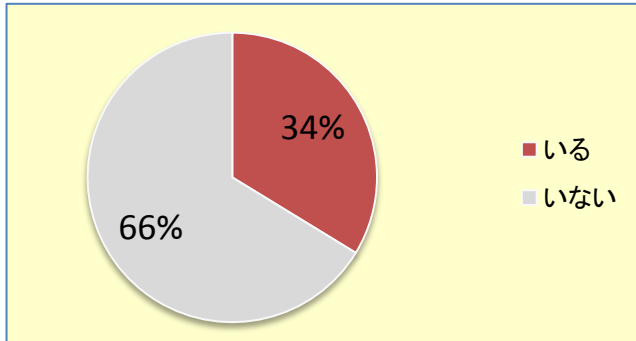


※“心因的な病状悪化した患者がいる”とした医師138人の回答から読み取り集計(複数選択)

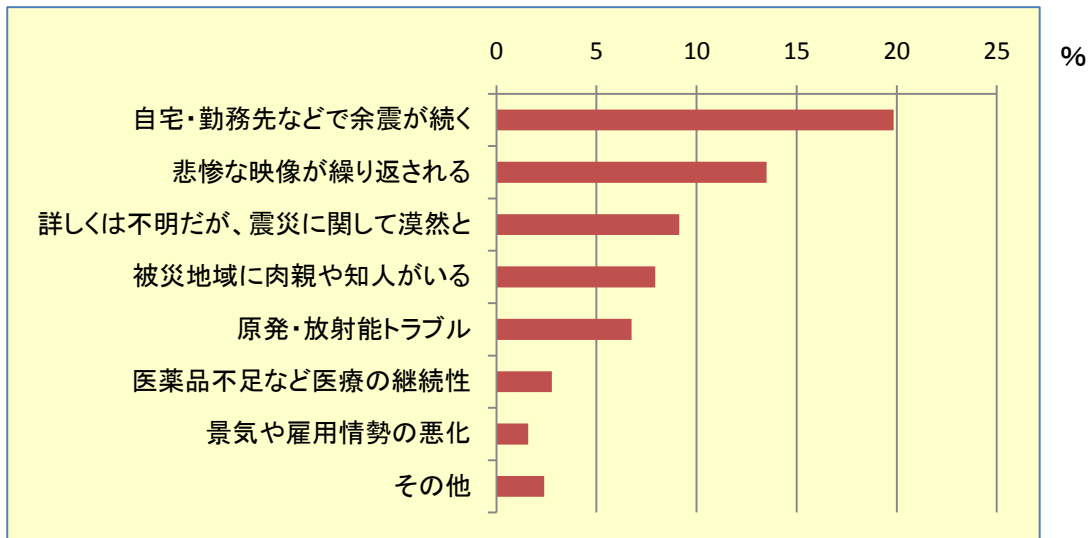
◆印象的な【小児】の症例		
・以前よりも顕著に視力障害の程度が悪化した小児	病院	東京
・3歳女児 地震後より頻尿みられ、入眠不可となり余震があるたびに泣き叫ぶようになった	病院	神奈川
・断続的に余震が続くので、そのたびに動作が止まってしまい母親のもとから離れようとしないうつ学前の幼児	病院	東京
◆印象的な【大人】の症例		
・2年間殆ど喘息発作の無かった患者で、感冒など一般的な増悪因子が無いにも関わらず、喘息発作が再燃した。	病院	神奈川
・40代女性が、心労と過労で軽度のアトピー性皮膚炎が悪化、また慢性蕁麻疹も合併している状態で来院。	診療所	神奈川
・以前から、数年に一度程度のめまいを自覚していた60歳代女性。主に安静時に頭位と関連ないめまいがみられ、神経系、画像所見問題なし。メリスロンなどの投与がある程度有効であった。	病院	千葉
・元来、精神障害がある人の中でも、軽症と思われる神経症圏の患者さんや躁うつ病圏の患者さんなどの若干の症状悪化。また、被災地ではないのに、従来精神障害がなかった人でも、不安・不眠、めまい・浮遊感などの自律神経症状を訴える患者さんや多重ストレスに大震災によって、自律神経症状などを訴え来院する人が増えた。	病院	栃木
・交通事故で全身打撲、頸椎捻挫、腰痛捻挫になった患者が、地震後のTVからの映像を見ていて嘔気、幻暈、耳鳴りが出現したと受診をされた。抗不安薬を投与して症状が改善してきた。	診療所	神奈川
・阪神大震災の被災者で、今回の地震で当時のことを思い出しパニック発作を発症。	病院	東京
・症例では印象的なものはないが、定期受診している人全員が普段より血圧が20-30ほど高かった	病院	群馬
・震災後に、TV報道などで、抑うつ傾向が出るのと同期して、浮腫の悪化が見られた。	診療所	千葉
・単身生活者であったが、地震(余震)のために一人で居られなくなり、入院を要するまでに不安が高じてしまった。	病院	東京
・地震以来、「いつもからだ揺れているようだ、いつまた揺れるか心配で熟睡できない」等の訴えが増え、今まで落ち着いていた血圧が上昇している、70代の女性。	診療所	栃木

4. 次のいずれかが原因とみられる「強い不安の訴え」があり、トランキライザーなど向精神薬を新たに(または増量して)処方した患者はいましたか。(複数選択)

大きな被災を直接受けなかったにも関わらず、3分の1の医療現場で「向精神薬の処方」が増えた患者さんがいる。その原因となった「強い不安」の具体的内容は、「余震が続く」が20%で1位だが、「悲惨な映像」が14%で2位に入り、実体験でなくとも映像によって精神的影響を受けた患者さんも少なくないようだ。なお「放射能」に対する不安で向精神薬の処方に至る症例も、7%の医師において認められた。



※%の母数は、いずれも全回答者(252人)



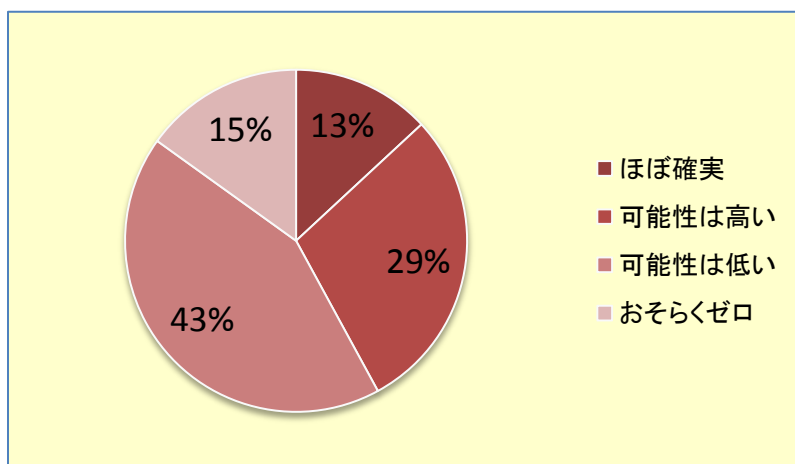
	n	いる								いない	%
		自宅・勤務先などで余震が続く	悲惨な映像が繰り返される	震災に関して漠然と	肉親や知人がいる	被災地域に	原発・放射能トラブル	医薬品不足など医療の継続性	景気や雇用情勢の悪化		
全体	252	19.8	13.5	9.1	7.9	6.7	2.8	1.6	2.4	66.3	%
病院	170	16.5	8.8	8.2	6.5	7.6	3.5	1.8	1.2	71.8	
診療所	82	26.8	23.2	11.0	11.0	4.9	1.2	1.2	4.9	54.9	
栃木県	15	13.3	6.7	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	86.7	
群馬県	13	15.4	23.1	0.0	0.0	7.7	0.0	0.0	0.0	76.9	
埼玉県	23	34.8	13.0	4.3	13.0	8.7	8.7	0.0	0.0	52.2	
千葉県	40	15.0	10.0	7.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	77.5	
東京都	117	18.8	9.4	13.7	7.7	6.0	0.9	1.7	1.7	64.1	
神奈川県	44	22.7	27.3	6.8	13.6	13.6	9.1	4.5	9.1	59.1	

5. 【今後のこと】について教えてください。自分の患者に大震災に起因するPTSDが見られると予想しますか。一番近いものを選んでください。

※「PTSD(心的外傷後ストレス障害)」とは:

危うく死亡・重症に至るような出来事を経験した後に、不安・不眠やパニックなどの症状が、一か月以上継続する、精神的な病気。(症状が1か月未満の場合は、PTSDではなく、ASD=急性ストレス障害に分類)

大きな被災を受けていない地域にもかかわらず、42%の医師が、自分の患者さんに「今後PTSDが見られる可能性が高い」と予想している。過去にPTSD症例経験ない医師も多いと思われるため、(そもそもPTSDとは何か、も含め)診療ノウハウの早期共有が望まれる。



	n	ほぼ確実	可能性は高い	可能性は低い	おそらくゼロ	%
全体	252	13.1	29.0	42.9	15.1	
病院	170	10.6	27.1	45.3	17.1	
診療所	82	18.3	32.9	37.8	11.0	
栃木県	15	6.7	20.0	53.3	20.0	
群馬県	13	30.8	30.8	23.1	15.4	
埼玉県	23	13.0	47.8	34.8	4.3	
千葉県	40	7.5	30.0	50.0	12.5	
東京都	117	13.7	23.9	41.9	20.5	
神奈川県	44	13.6	34.1	45.5	6.8	

本調査に関するお問い合わせ先:

株式会社QLife 広報担当 山内善行

TEL : 03-5433-3161 / E-mail : info@qlife.co.jp

<株式会社QLifeの会社概要>

会社名 : 株式会社QLife(キューライフ)

所在地 : 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂2-7-2 リングリングビルA棟6F

代表者 : 代表取締役 山内善行

設立日 : 2006年(平成18年)11月17日

事業内容 : 健康・医療分野の広告メディア事業ならびにマーケティング事業

企業理念 : 生活者と医療機関の距離を縮める

サイト理念 : 感動をシェアしよう!

URL : <http://www.qlife.co.jp/>
